

パネル 2014年度石巻市鮎川での企画

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2015-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東北学院大学文化財レスキュー班 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/363

「牡鹿半島のくらし展 in 鮎川―再生・被災文化財―」開催

文化財レスキュー後の取り組み 2013～2014

●展覧会での聞き書き調査

翌日の8月13日からは展覧会本番です。3日間にわたる展覧会では、東北学院大学の文化財レスキューチームの学生が中心となり、来場者の方々に聞き書き調査を行いました。慣れないことで大変でしたが、昨年の展覧会経験者である4年生の手助けもあり、最終日には円滑にコミュニケーションをとることができました。

展覧会には鮎川近辺の住民だけでなく、実家に帰る途中に立ち寄った方、ボランティアや観光で鮎川に来ていた方、新聞やテレビの報道を見たという方など、県内外から多くの方が来場しました。

来場者からは、資料を見ながら思い出話をお聞きしました。捕鯨をしていた方には具体的な鯨の各部位の加工方法も伺うといったように、資料に関する情報も収集することができました。例えば、鯨の髭がインテリアになることは知っていましたが、他にも皿や絵を描くキャンパスにするという加工方法も新たに判明しました。また、若い頃捕鯨船の船長をされていた方によると、私たちが捕鯨鉈だと思い込んでいたものが実は練習用の物だったこと、そして実際に使う捕鯨鉈には先端に爆薬が仕込まれていて、それを鯨に突き刺して使用することを教えてくれました。

昨年とは異なり、展覧会の会場がテントで活動の様子が分かりやすいためか、来乗者側から興味をもって声をかけていただいたことが印象的でした。



聞き書き調査の風景

●新たな取り組み

今回は新しい取り組みとして、老人ホームとデイサービス施設へ資料を持ち込んで、お年寄りの方々への聞き書き調査を行いました。ある女性は、わらじを手にとって、若い頃に竹の皮を使って編んだと話し、わらじの編み方を教えてくれました。

さらに鮎川の捕鯨会社への取材も行いました。北海学園大学の学生とともに取材にあたり、鮎川の主要産業であった捕鯨について理解を深めました。

聞き書きしたことは宿に戻った後に「聞き書きシート」に記録します。このシートはお話を伺った方の年齢や出身地などの情報と、会話の内容を記入できるようになっています。会話を再現するため、お話を聞いたかたすべてのシートを作成するのは大変でした。



デイサービスでの聞き書き



聞き書きシートへの記入

●展覧会を終えて

今回の展覧会は新たに事前に資料のデータ収集を行っただけでなく、老人ホームや捕鯨会社などでも聞き書き調査を行ったことから、より踏み入ったお話を聞くことができ新しい発見もありました。

今後も石巻や仙台での展覧会が控えており、さらに多くの方々からお話を伺うことができると期待されます。資料を鮎川へ返却するまで、二酸化炭素ガスによる殺虫処理作業や今秋より行う脱塩処理といった資料の保全活動と並行してデータの収集も、活動を継続していきます。